

International Association for Dental Research General Session に参加して

生体歯科補綴学分野 秋葉陽介

2010年7月14-17日 スペイン・バルセロナにて開催された IADR に参加してまいりました。スペインは日差しが強く、気温こそ高いものの湿度が少なく、夜は過ごしやすい気候でした。今回の学会には当教室からは口演1題、ポスター発表4題の発表を行いました。私はいくつかの研究テーマの中からヒストン脱アセチル化酵素阻害剤を用いたエピジェネティクス制御による骨芽細胞賦活化による骨再生法の開発についてポスター発表を行わせていただきました。エピジェネティクス制御を用いた研究は幹細胞の分野や神経変性疾患治療、腫瘍などの分野での研究が盛んで、これまで歯科の骨再生への応用はそれほど見られませんでした。今回の学会ではいくつかの研究においてエピジェネティクス制御に関するものがみられ、ポスターセッションのプレゼンテーションでは何人もの方が質問に来てくれて、そのディスカッションの中で多くの貴重な意見をいただくことができました。私も気になるポスターがいくつかあり、演者の方と話をしたかったのですが、IADR はとにかく参加者が多く、またセッション数も多く、ポスターの数も尋常でないため、そのすべてを回るのは難しく、ポスター、口演、ともに事前に抄録でチェックしていた発表をいかに効

率よく聞きに行くか、綿密なスケジュール立案が求められました。さらに、当科では大学院生に帰国後、発表の中からいくつかを選んで医局員の前でプレゼンするという宿題があるため、時折彼らにおすすめのセッションと一緒に聞いてアドバイスする必要もあり、日中は広い会場中を走り回っておりました。

夕方、早めにセッションが終わると近場に観光に行くことができました。スペイン・バルセロナといえば建築家、アントニオ・ガウディ。以前より写真、テレビ等で紹介されるその建築物に興味があり、ぜひ本物を見てみたいと思っていたので、「この機会に」とどうにか時間をやりくりし、可能な限り見学して回りました。サクラダ・ファミリアは学会開催時間と入場時間が合わず、内部には入れませんでした。カサ・ミラ、カサ・パトリヨ、グエル・パークなど、独特の曲線と色彩を堪能しました。特にカサ・パトリヨは形態、色彩、機能すべてにおいて高度に数学的な美しさがあり、計算とインスピレーションに基づきデザインされていて、ただため息が漏れるばかり、どれだけでも飽きない素晴らしさでした。帰国後に見返せば、撮ってきた写真も良いのですが、実物の凄さ、美しさを表現しきれていないのが残念です。



スペインの魅力といえば食も外せません。ランチはマーケットでフルーツ、フレッシュジュースやパニーニ、キッシュを、ディナーは近所のバールで生ハムやパエリアをビールやワイン、サングリアと一緒にいただくのは何とも言えず贅沢な気分でした。料理は日本人の舌に合うと思います。魚の処理がうまい国の料理は大概日本人に合うというのが持論です。地元の人に聞いた話ではサングリアが極めて観光客用の飲み物であるそうで、この事実には結構ショックを受けました。しかし、考えてみれば日本にゲイシャやサムライがいなくて、毎日スシを食べていない、とスペイン人が知ったら同じ気分になるのだろう、などと考えながら情熱の国スペインに別れを告げ、帰国の途に就き

ました。

っといきたいところだったのですが、ブリティッシュエアがなかなか離陸せず、結局ヒースロー空港で日本行きANAの便は僕を置いて日本へと飛び立ってしまいました。ブリティッシュエアの用意したホテルで一晩過ごし、翌日の便で帰国する事態になったのは、学会にもかかわらず、いささか楽しみ過ぎてしまった僕への戒めだったのかもしれませんが。

IADRは規模も大きく様々な分野の研究者と情報交換できるいい機会ですので、今後も積極的に参加できるよう日々研鑽を重ねていくつもりです。次回2012年はブラジル・リオデジャネイロで6月20-23日の開催とのことです。

